

## 令和元年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	6	学校名	登美ヶ丘高等学校
----	---	-----	----------

### 1. 取組名 第26回 秋風のコンサート

### 2. 活動内容

高校生による社会参加活動の一環として学校を開放し、生徒の活動の一端を紹介することにより地域の方々の理解を深め、地域社会に支えられた学校の発展を願って実施いたしました。

### 3. 成果と課題

地域の構成員の一員として、自らの学舎が、グローバルな発信場所として、義援金活動を行う場ともなり、グローバルな一面を見せている生徒たちの成長が感じられることが一番の成果です。今年は好天に恵まれて、夕暮れから黄昏時から暗くなっていく雰囲気と爽やかな秋風が心地よい雰囲気でした。昨年につき、富雄中学校の出演によりコンサートのクオリティーも維持できたことは大きいです。

課題としては、本校が取り組んでいる「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」で学んだ地域の課題をより深く学ばせるためには、毎年参加いただいている団体だけでなく、その他の音楽活動等をされている団体との幅広い交流の場を持続的に本校の場所で行うことが必要です。

### 4. 次年度に向けて（担当者の感想を含む）



四半世紀を迎えたコンサートは、本校生徒の通学時・教育活動時でのバスや自転車通学時で地域の方々へのご理解を得るために校内で始まった経緯があり、地域住民には恒例行事となるまでに成長しました。今年も800名のご来場を得て、アンケートの結果から数十年前の登美ヶ丘高校の卒業生のお客様も来場されていきました。

このコンサートが本校生徒のために有意義な点は、やはり何といたってもプロデュース力を養えるところです。「おもてなし」の精神を実践できる場として、地域の幼保小中高大が参加する行事としてつながっています。

次年度にむけては、すでに学校行事（登美ヶ丘祭）等には、地域のグループホーム利用者に本校に来ていただいているので、地域のグループとのつながりを持てればコミュニティ・スクールとしての役割を果たせるのではないかと考えています。

地域の担い手は地域で育成できればと考えていますが、登美ヶ丘地域で地域活動の運営等の経験を自分の住んでいる地域に合わせた内容にカスタマイズして担うような生徒を育成していくためにも、このイベントの意義は大きいと思います。